
忘れんじゃねえ、俺もだよ。

行方不明。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れんじゃねえ、俺もだよ。

【Nコード】

N3035E

【作者名】

行方不明。

【あらすじ】

ぎんさんと桜夜の話。記憶が消えていくなかで思っているのは、

「しらときい〜」
桜夜おひやは呼ぶ。

「銀時だつつつてんだろうが
下手したらシラタキみたいだからやめろ。」

このやり取りも何回目になるだろうか。

「やめるも何にも、俺、記憶力無いも同然だから無理〜
おまえ、『時』はなんとなく思いだせんだけど
『銀』が出てこなくて

先に若白髪の『白』が出てくんだもん。」

「コレ銀髪なんだけど」

「白いじゃん。」

「白くねえよ!つたく、
………最近記憶、やばいのか?」

「なにが?」

「最近多いだろ、物忘れ。
しかも日常的事ことバツカ。常識はあんのに。」

「気のせいだよ」

そう、言った。

実はやばいけど。

自分の中で、何かが消えていくのが、すごく感じられるほど、

思い出そうとしても思い出せないほど、

自分は、大切なものを失っていつている。

「気のせいだって、」

そうだったらしいのに

「ホントだよ？」

嘘だけど。

きえゆくきおく。じぶんのなかで、なくなるみんな。

嫌だなあ、

忘れたくない。

「自分」でいたい。

だめなんだろうけれど、

しかたないんだろうけれど、

「まったく、心配させんなよ
嘘ついて、余計に気になる」

目の前の彼はそういうけれど。

消えるものは消えちゃうんだなあ。

あ、なんて名前だったっけ？

忘れてしまった。

このまま、全部忘れんのかな？

彼を好きな気持ちごと。

・・・忘れたくない、この気持ちだけ、

忘れそうだからここに残すか、

「なあ、」

「ん？」

「ありがとう。」

俺、お前のコト好きだから。」

この言葉、とどいたかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3035e/>

忘れんじゃねえ、俺もだよ。

2011年1月9日02時54分発行